

1. 「夢をあきらめないで」

最近、若い人達に「将来の夢」を尋ねたときに「分からない」とか「別に…」という答えが返ってきてガッカリする事って多いと思いませんか？少しの言葉の違いで印象は大きく変わるものです。例えば、その答えた言葉が、「今探しています」「まだ見つかっていません」というようなものだったら、積極性を感じませんか？何か自分の進みたい方向を見つけることができた人は積極的になれるでしょう。見つけようとする気持ちだけはいつまでも持っていてもらいたい。

私が落語と出会った時の思い。落語家に進もうとしたときの迷いや、それとは裏腹のワクワク感。加えて、進んだ後に知る現実や難題。乗り切っていくための心の動き。こういったことをお説教じゃなくて、いっしょに考えるような話をみんなに聞いてもらいたい。成功者の言葉ではなくて、今現在も迷いながら進んでいる私の言葉を聞いてもらいたい。何と出会い、どんな人と接して、どのような環境の中で育って、何を見つめて進んでいるのか。すべてをさらけだす覚悟でお話したい。「最近の若い人は無気力だ」と嘆く前にいろいろな人生や考え方があるということの1つの例として私の話を聞いてもらうのもよい方法じゃないかなと思います。

何かを見つける。見つけたら失うものもある。失うものより大切なものを得ることもある。少しは夢・希望・将来に対して熱くなってもいいと思う。

2. 「私が見つけた夢と路」

落語家になった私に対して、よく人は、「小さい頃から明るくユニークだったんですか？」と尋ねてくる。人それぞれにさまざまな人生がある。そこで、私の今までの育った環境をお話しています。

私の出生の秘話。両親の3度の離婚・再婚。母子家庭。近所の偏見。職業への偏見。子供同士の変化。学校の対応。吃音。いじめ。無気力な小学生時代。心の恩師との出会い。落語との縁。おばあちゃんの笑顔。私を助けてくれた落語。「自分らしさ」を教えてくれた師匠。こういった細かいテーマが挙げられます。私の過去を聞いてもらうことで私も救われます。そして、何より聞いてくださったみなさんの身近にもたくさん問題と「きっかけ」が存在することに気づいてもらいたい。私を感じたことや心の動き、また、周りの大人達の行動や言動。みなさんへのアドバイスにはならないかも知れませんが、でも、何かを感じてもらえるはず。私の過去は、しよせん他人の過去かも知れませんが、とても身近なことなんです。

人は、人の言葉で大きく落ちていきますし、その代わり、人のたった一言で大きく救われることがあります。消しゴムの効かない言葉。その言葉を職業に選んだ私の過去を、気楽に、でも確かな思いで聞いてください。

3. 「自己表現のすばらしさ」

「言葉は消しゴムが効かない」と教わりますね。訂正すると「言い訳行為」という卑怯な行動のように思われます。けど、「言い訳」って本当に卑怯な行動なのでしょうか？私は違うと思います。

今「自分らしさ」を求める人が多いですよ。一人旅＝自分発見の旅なんてこともよく言われます。

まず、自分を表現することが大切になってきませんか？その第一の手段として「言葉」です。

言葉は消しゴムが効きません。発せられた言葉を相手が受け取ってしまえば、それで成立します。時として発信者の想いとは違った解釈をされて誤解を招くこともありますよね。でも、言葉での溝は言葉で限りなく生めることができると信じています。誤解を招いたときの「わびたい」「ちゃんと説明したい」という気持ちは「言い訳」と呼ばれますが、言い訳したいということは「あの人のつながりを終わりにしたくない」という気持ちの表れだと思いませんか？少しの心の余裕を持って、言葉で傷つけられてしまっても、相手が「言い訳」に来たら、会いたくないでしょうけど、ちょっとだけ耳を傾けてみませんか？相手の心が見えてくるはず。本気なのか、そうじゃないのか。言葉には、とても怖い部分があります。でも、怖がってばかりでは何も分かってもらえません。「言わなくても分かる」は間違いです。「言わないと分からない」んです。

「自分らしさ」を知ってもらうために、どんどん言葉の発信者になりませんか？私の閉ざされた心を開いてくれた数々の言葉もご紹介します。

4. 「親の心・子の心」

よく見聞きする「親子のコミュニケーション」という表現。間違っただ認識を持っていませんか？知っているようで知らないのが「コミュニケーション」。間違っただ方向に進むと大変なことに…子どもさんと接する中でこういう植付けしてしまっていないですか？

- ・（女の子）ピンク / （男の子）ブルー。
- ・（女の子）おままごととセットや人形 / （男の子）ロボットのおもちゃやスポーツ用品。
- ・（女の子）かわいらしく、やさしい子に / （男の子）たくましい強い子に。
- ・（女の子）勉強よりも家事を手伝わせる / （男の子）家事をさせるよりも勉強をさせる。
- ・（女の子）「いいお嫁さんになれるように」 / （男の子）「妻子を養えるように」。
- ・（女の子）「女の子なのにおてんばでこまる」 / （男の子）「男なら泣くんじゃない」

私も2児の父親です。知らず知らずのうちに、息子と娘に言ってしまうような気がします。だから、私もみなさんと一緒に考えて学んでいきたいんです。

古典落語の中にも親と子の会話風景やお説教・しつけの場面などたくさん出てきます。けど、そんな多くは「人間と人間が向かい合っている」というような描写がたくさんあります。古典落語だから古い考え方の会話と思っていたら大きな間違いだったりします。たとえ親子であっても「人と人とのつながり」であることを思い知らされる場面がたくさんあります。今あらためて落語を引用した話の中で、みなさんいっしょに「親子」を考えてみませんか？みんな昔は子供だったんですから。

5. 「古典落語に見る親子関係」

子供を叱ったりしつけをするのは難しいですね。また、誉めるのも難しい…でも、ありがたいことに私の本業とする落語の中にはさまざまな親子が登場してくれます。そして、たくさん場面描写があります。古典落語ですから古臭い説教かと思えば、本質を鋭くついている会話がいっぱいあります。「自分もあんなお説教ができたら…」とか、「そういう父親になれたら…」というように憧れさえも感じさせるような人物が登場します。逆に悪い例もあって、親の、または子供の不用意な言葉が大きな問題を引き起こすなんてのもあります。

落語の中の場面を再現しながら、今に取り込めるものはどんどんと吸収できるようにしたいものですね。親子でトントンと漫才の掛け合いのように進行する会話。その中にたくさんのエッセンスが隠されていることを解説しながら、聞いているみなさんに笑ってもらいながらお話を進めていきます。時には大人として「苦笑い」しかできないような子供の発言もあつたりします。でも、子供はそういうことをいっぱい考えているんでしょうね。「親子であっても、人と人として付き合えたら…」。大きなテーマであり課題でしょうね。

6. 「総合学習・心の授業・落語の時間」

生徒さんと一緒に落語を楽しみましょう。雰囲気、言葉だけですべてを表現する「落語」に接してもらっています。「落語＝お笑い」と解釈するのではなくて、古典芸能として受け止めていただけるように、国語・歴史担当の先生からご依頼をいただくことが多いです。

「子供たちを笑わせるのではなくて、伝承芸能として古典落語を子供達・生徒達がしっかり理解・想像できるか。その前に話を聞くことができるか」ということに重点が置かれていますし、私も大いに賛成です。また、中学生以上になると「落語家という職業」「表現方法」「言葉の流れ」「桂七福という人物」と言ったようにテーマも複雑なものになります。落語にも多くの種類があります。単純なものから、しっかり聞いていないと理解できないものなど。先生方の思いと、対象になる生徒さんの年齢に合わせて演目を選び、落語をキチンと聞いてもらえるように、そして、楽しんでもらえるように心がけています。

落語は古臭いものと思っている子供達に「良いカルチャーショック」を受けてもらいたいですね。そして、子供達が言葉を楽しんでもらえるようになって欲しい。子供たちの中で、親・兄弟姉妹・友人・知人との対外的な「表現」や「会話」が乏しくなつてきているといわれます。対話が少なくなるということは、心の交流も少なくなつてきているのではないのでしょうか。「あえて言葉にする」「あえて黙っている」。この「あえて」が相手に対する心の動きです。落語には相手に対する思いや配慮などがたくさん含まれています。言葉を発信できる喜びや表現するテクニックをお伝えします。